

千葉 勉 プログラム・スーパーバイザー（PS）からのメッセージ

「革新的医療技術研究開発推進事業産学官共同型）」は、「患者数が少ない」、「異なる業種の連携が必要」などの種々の理由から、基礎研究や創薬技術などが十分な医療開発の成果につながっていない領域に対して、産学官が連携して、画期的な医薬品・医療機器等の研究開発を行うことを目的としています。

本事業の目的は、言うまでもなく「優れた医療技術（医薬品・医療機器等）を開発して、社会に提供すること」ですが、その中でも今回公募される「スタートアップタイプ」は、特にスタートアップ企業を支援する、と言う目的がこめられています。昨今、我が国においても多くのベンチャー企業が立ち上がってきています。私自身もあるベンチャー企業のアドバイザーを務めています。皆さんとても優秀で、とても熱心で、かつ魅力的な研究開発を行っておられます。小さいですが、こうした優れた種、芽を育てていくことは、我が国の医療開発を進めるにあたって、その基礎となる極めて重要なことだと考えています。

さて、本事業のキーワードは、1) 産学官共同型であること、2) 複数のアカデミアと複数の企業がコンソーシアム等を構成すること、3) 非競争領域の研究開発を実施すること、ですが、これらの点については応募を考慮される方々から、こうしたキーワードによる制約のために応募がしにくい、というご意見をいただきました。今回の公募では、こうした制約（キーワード）のいくつかを緩和する方向で工夫しました。

それにつけても、本課題に公募していただくにあたって、私自身がもっとも重視している点は、何と言っても「シーズとニーズ」です。いくら研究の建て付けが整っていても、優れたシーズでないと結局優れた成果を生み出すことはできません。また、社会や医療現場でのニーズ（必要性）が高くなければ、その研究の成果は役に立たないものになってしまいます（もちろん、研究の成果が10年後、20年後に思わぬところで役立つ、ということとはしばしばあることではあります）。私自身は臨床家なので、常に「この研究は本当に社会や医療現場から求められているものだろうか」という点を最も重要視しています。

それで、あえて申し上げますが、今回はこうした本筋となる「シーズとニーズ」を見失わないように対応したいと考えています。すなわち、表面的な研究体制で評価することなく、優れたシーズ、ニーズを最優先に評価したいと思います。その上で、研究開始に向けた産学連携の体制構築などについては、AMEDから支援することも考えております。

以上、是非「優れたシーズとニーズ」の課題を沢山提案していただき、将来に役立つ研究基盤を創設し、研究発展の「種」を育成していただくことを切望しています。

関西電力病院 特任院長
千葉 勉